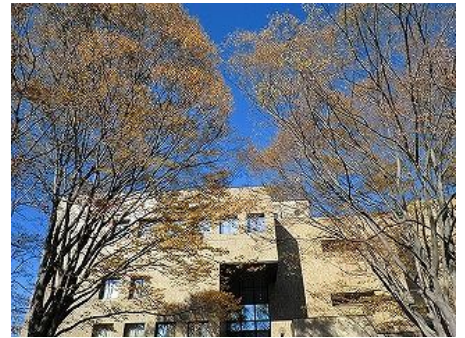


平成25年度学校事務研究大会

平成25年度11月22日(金)、宇都宮市文化会館において「創造しよう！子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を大会テーマとし、平成25年度栃木県公立小中学校学校事務職員研究大会が開催されました。今年度は「変化から行動へ！The Positive Future とちぎの学校事務」をサブテーマに、社会や学校そして地域の変化、さらに事務職員の置かれている現状等を踏まえた上で、「変化し行動するとちぎ」の取組について理解を深め、学校経営ビジョンの実現につながるたちぎの学校事務の構築や、「たちぎ学校事務ビジョン」三つ目の課題である事務職員の学校経営参画の在り方についてを中心にした研修が行われました。



▼オリエンテーション

昨年の研究大会で実施した学校経営参画に関するアンケートより、会員一人一人が持つ学校経営参画の具体的なイメージや意識、携わり方にばらつきがあることという分析結果から、この研究大会では、今とちぎで始まっている変化を、たちぎ学校事務ビジョンの3つの課題に沿って理解し、事務職員が学校経営参画を果たしていくための積極的なアクションをおこす機会にしたいと相澤研究部長から話がありました。



▼全体研究会 I



全体研究会Ⅰは、ワークショップ形式が取り入れられ、冒頭で、全国大会石川大会分科会研究責任者の猿橋研修部長より、提案のポイントや、今後栃事研が「研修の体系化」として進めていくステージ別研修についての説明がありました。さらに、この基調報告を元に栃事研が進める「とちぎチャレンジプラン」のねらいや考え、方向性、今後の取組などについて、栃事研吉田副会長より具体的な説明がありました。また、学校事務の組織化の実行策の1つである共同実施やとちぎ学校事務ビジョン推進チームの役割や取組内容についてもお話がありました。

栃木県教育委員会事務局教委職員課管理主事 篠崎佳昭氏からは、昨年11月に各市町教委あてに通知された「栃木県公立小・中学校学校事務共同実施推進のモデルについて」の内容について説明をいただきました。共同実施の定義に「行政機関や地域の公立小中学校の連携を強化し、組織的、計画的に学校事務を行うこと」とあり、市や町の教育委員会と事務研の連携がますます重要になってくることが確認できました。また、事務研へのアドバイスや学校事務職員への期待などもお話しいただきました。

最後に、相澤研究部長から「学校経営参画」の取り組みの入り口を扉に例え、学校経営参画の幅と高さを追求していただきたいとの話がありました。



▼ 全体研究会Ⅱ

全体研究会Ⅱでは、埼玉県公立小中学校学校事務職員研究協議会会長 倉林昌子氏より「事務職員の学校経営参画～日常からのアプローチ」と題し、学校経営参画の重要性や具体的な取組について、日々の実践に基づいたご講演をいただきました。

埼玉県、三芳町、そして三芳中の現状と課題を例に、日々の実践に基づいたお話や、学校経営ビジョンの実現に向け、学校経営参画に積極的にアプローチをしていただきたいというお話がありました。



▼支部発表（下都賀支部）



支部発表では、「未来のわたし これからの自分像ーキャリア形成と職の深化ー」を研究テーマに、自分の思い描く事務職員になるためのキャリア形成と職の深化について発表がありました。下都賀支部では、トータルプロデューサーを目指した段階別キャリア形成とマネジメントから求められる研修のあり方について、研究が進められてきました。

発表前半は、小山市立間々田中学校事務長 谷藤朝雄氏と下野市立石橋中学校事務長 吉田 崇氏の2人による事務職員の専門性を活かした学校現場での実践取組についての発表がありました。発表後半は、キャリア段階ごとの代表4人の方々による、目指すトータルプロデューサー像について座談会がありました。

提案を通して、事務職員としての専門性を活かすキャリアの大切さや教育の一翼を担う事務職員としての想いを受け止めることができました。10年後、より信頼される事務職員を目指して日々研鑽していきたいと考えさせられました。



▼まとめ

最後に研究大会一日を振り返る、まとめの時間が今年度は設定しました。大会の成果と課題を整理した上で、相澤研究部長から、子どもの豊かな育ちを支援する「とちぎ学校事務ビジョン」の実現に向けて何よりも重要なのは会員一人一人のアクションであり、今大会で感じたとちぎの変化を明日から実践や行動に結びつけていただきたいと思います。とまとめました。